

空前の大盛況

黒田先生の大和郡山での個人映写会

去る2月15日(月曜日)午後6時より、やまと郡山城ホールで行われた「東大寺修二会・お水取りの全貌」公開映写会には、夕方早くから来場者があふれ、1,000人収容の大ホールがすぐに満員となり、急遽300人収容の小ホールにも入ってもらったが、定刻前には既に両会場にも入れない凡そ200人の来場者には残念ながら帰ってもらうという予想外の来場者数で、まことに前代未聞の盛況に驚きました。立見席でももう少し入ってもらったら、という気持ちもありますが、消防法で定員厳守とのことでした。

この盛況を見て、黒田先生の小児科医院開業時から如何に地域社会のために幅広く人と人との繋がりに深く関わってこられたとか、ということに改めて感じ入った次第です。

個人映写会には珍しい、作品「東大寺修二会・お水取りの全貌」一本に絞られての発表会でしたが、この10年に亘る「お水取り」行事の詳細な記録だけに見映えある作品内容となっていました。

ともあれ、この度の映写会の大盛況おめでとございました。拍手！

合原会長が東京ビデオフェスティバルTVFに入賞

◎「最後の田んぼ」 合原一夫 15分 TVF2016入賞

3月例会のお知らせ

■第2例会：今月は第2例会はありませんが同日ミニ撮影会を実施します。

3月17日(第3木曜日)午前9時40分、JR旧片町線、徳庵(とくあん)駅前(下車して左側へお入り)集合。詳しくは関世話役まで。

■通常例会・3月26日(第4土曜)18時より、難波市民学習センター(OCATビル4F)にて開催。日一日と暖かくなって来ました。楽しいひと時をみんなで過ごしましょう。

(注) 3月第2例会は野田会員の東大阪の工場で撮影会となります。ミニ撮影会の審査会は5月第2例会日。課題コン「野」の審査会は4月第2例会日に行います。

映像記録のデジタル化実施

これまで例会で上映した作品記録は録画担当がDVテープに記録しそれをDVDに焼いてクラブの記録とするとともにそのDVテープを講評担当が持ち帰り例会講評の資料として利用してきました。DVフォーマットなので画質はハイビジョン(HDV)より劣るし、録画機械の修理、DVテープの入手などいつまでもこのまま使うわけにもいかず、何とか方策を検討する必要性を感じていました。DVテープ及び録画デッキもいずれなくなることは明白なのでデジタル化してハイビジョン画質で保存しようということになりました。そこで出品されたBDディスクをノートPCに取り込み、USBメモリにして書記が持ち帰って講評を書くということになりました。その第1回の試みが今月から行われます。PCに記録したハイビジョン画質の作品は別途専用のHDDに保存することによりクラブのアーカイブ資料として残せます。この試みは遅きに失した感がありますが、今後はデジタル方式でしっかり残すこととなります。初回の今月は進藤世話役が担当されました。

課題コン「野」に取り掛かっていますか

4月第2例会(21日)で互選による選考を行います。10分以内で作ってください。

■一泊撮影会は5月14日(土)～

15日(日)

京都府南丹市美山町・かやぶきの里

お知らせの通りくわしくは別途案内、担当高瀬世話役。3月例会で受付します。

参加費 15,000円 交通費:凡そ4,000円

■吉村健一氏が退会

平成25年10月に、野田邦雄氏と共にOMCに入会された吉村健一さんが、ご家

族の介護もあって、平成27年度末をもって「退会届」が出されました。これから期待していたが残念です。どうか今後のご健勝を祈念しています。氏の発表作品

- ・H26.9 りんくうタウン散策
- 〃 .10 玆尊院と高野山 お礼御参り
- ・H27.1 大阪城イルミネーション
- 〃 .2 山背古墳を歩く
- 〃 .3 早春の神社と道頓堀ウォーク
- 〃 .4 春爛漫
- 〃 .5 賀茂神社小五月祭り
- 〃 .7 当麻寺周辺を巡る

◆メルアドのお知らせ

江藤 洋司 様

yoji_eto@live.com

yojiとetoの間に_アンダーバーが入ります。

◆出席者：赤澤、有村、稲田、江村、江藤、岡本、紙本、河合、黒田、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、西村光、野田、華岡、前田、宮崎、森下、森田、山本、(敬称略)の22人と上映本数は14本(出品は15本)でした。

◆上映作品 (講評：前田世話役です)

1. よさこい群像 (BD)

江村一郎 7分30秒

これまでの編集とは一味変えて作りましたと云って持参されました。TOPからアウトフォーカスしたシーンで入って意表を付きます。撮影テクニックは作者らしいアップカットの連続で非常に迫力があります。今回はソラリゼーション等エフェクト効果を幾つか挟んで表現しようとしています。このような特殊効果は使い方が難しく一般作品では使えませんが、江村流では敢えて使ってみるという冒険を試みています。印象風から心象風へ一味変わった作品を作ろうとい

う試みでしょうか。しかし次回はまた元の作風に戻した作品をつくるとのこと。余りにアップが多いので疲れる、ラストのロングシーンは不要ではないかとのコメントがありました。

2. 下栗の掛け踊り (BD)

河合源七郎 7分16秒

長野県飯田市上村下栗の里、南アルプス聖岳の麓、標高1000m程で最大斜度38度にある50戸100人程の小さな部落です。急斜面に作られており過疎となった部落ですが、過疎に負けない新しい部落を作るために村人たちは力を合わせています。この部落に伝わる国の重要無形文化財の祭りが二つあって、12月の霜月祭りが有名ですが、今回はお盆に行われ豊穰を祈願する雨乞い神事、下栗掛け踊りを紹介してくれます。お祓い後、抱え太鼓を持つ男衆、バチを持つ男衆とが舞いながら太鼓を打って踊りを奉納します。側では笠を被った少女達も踊って艶やかさを引き立てます。誠に素朴な日本の原風景というべき場所で行われる日本の祭りの原型の姿を見ているようです。本来民衆の祭りはこうあるべきもので、各地の大懸かりの派手な祭りは日本の古来の心から離れているといってもいいかもしれません。それ故に国の無形文化財に指定されているのでしょう。最近はこの過疎の地も日本のチロルと名付けられ訪ねる人々も多くなってきているようです。

3. 2016 大阪消防出初式 (BD)

坪井仁志 7分36秒

南港で行われた大阪消防出初式を撮ってまとめてこられた作品です。式典そのものが派手な演出で迫力があって楽しめました。陸上の消防車からの七色の一斉放水、ヘリ

コプターからの水難者救助訓練、ヘリからの放水、海上での放水艇による七色の一斉放水等はいずれも迫力満点で楽しい作品です。バックに停泊していたフェリー「さんふらわあ」の姿が実によく効いていたと司会のコメントもありました。

4. 東大阪めっちゃ元気な「まち」やねん (BD) 岡本至弘 5分30秒

東大阪市 夢広場20周年記念で作られたイメージソングにのってフラダンスを踊るグループを撮った作品です。歌詞は布施市民が作り、作曲は「つくく」さんが行ったとのこと。フラダンスの先生が振りをつけ二つのダンススタジオの生徒全員(中高年のご婦人達)が花園ラグビー場第2グラウンドでフラダンスを披露します。踊りは3回やってもらいそれをタイムラインに3本並べて編集したとのこと。しかし現場SEが風の音や他のノイズで使いものにならずCD音楽に置き換えたそうです。編集・BNGにご苦労があったようですが、折角3回もやってもらったのならもっと密着してダンサーのアップカットが欲しかったと思います。岡本カメラマン占有の撮影ですから、密着して真下から狙い踊り子さんたちの楽しそうな笑顔や踊りの様子を拾うことは出来なかったのでしょうか。作品は12~13日に地元で一般公開し、つくくさんにも見て頂くそうです。東大阪市の盛り上げにひと役買うことは間違いない作品です。

5. 真田三代記 幸村編 (BD)

紙本 勝 15分00秒

NHK 大河ドラマで放映されている「真田丸」に因んだ企画でまことにタイムリーな作品です。先月の昌幸編の続編です。長野県上田市本原の里、真田氏発祥の郷を訪

ねてスタートします。初代 幸隆は真田一門の礎を築き、2代目昌幸は智謀と策略によって徳川の大軍を2度に亘って打破り、その意志を継いだ3代目幸村は、六文銭の旗印のもと日本一のつわものと称され見事な散り際をみせてくれましたが、紙本作品はその間の数々のいろいろな出来事を詳しく調べ上げ簡潔明瞭に語られ大変判り易い歴史物作品に仕上がっています。作品は幸村の「勝者に媚びず義に生きた人気抜群の戦国武将として400年を経た今でも語り継がれているのです。」というナレーションで締めくくっています。これだけの資料を集め、現地へ何度も足を運ばれ大変苦労されたことがよく判ります。今回の作品も素晴らしい歴史物作品だと思います。

6. 山好き夫婦の思い出 (BD)

有村 博 11分20秒

壮年時代の元気な頃かつて撮った山行きのカットを再編集し、この作品にまとめられホームビデオ作品として持参されました。

昔からそうですが作者は大変自分撮りが

上手でこれまでも数多くのホームビデオを見せてもらってきました。昭和52年の40年前に行った北アルプスの表銀座を皮切りに、槍ヶ岳、奥穂高岳、西穂高独標、白馬三山、燕岳、蝶が岳、常念岳等々北アルプスを代表する山々を登ってきた思い出を、上高地を訪ねた時の映像に重ねて見せてくれます。

何故山に登るのかと聞かれた高名な登山家が「そこに山があるからだ」と答えたとか…。本当に夏山は素晴らしいもので、なかなか文章では表現しにくいものですが、この作品は山の素晴らしさを昔の8ミリ映像で示してくれます。昭和58年に槍ヶ岳山頂に立ったときの喜びと感激は写真ではなく

映像こそが見事に伝えてくれます。比較的最近上高地に行ったときに昔の思い出が走馬灯のように巡ってくるという構成です。それにしても克明に登山の記録を残されたものと敬服します。素晴らしい作品です。

7. ブドヴァとコトル (BD)

華岡 汪 9分42秒

今回はバルカン半島の北部あたりのモンテネグロ共和国を紀行され作品です。第2次大戦後ユーゴスラビア連邦の一員となったが、その後2006年に共和国として独立したそうです。ブドヴァのアドリア海に突き出た旧市街は14世紀から交易をしたベネチア時代の古い街並みが美しい所です。中でもセルビア正教聖三位一体協会の内部は極彩色の壁画で飾られ目を見張る美しさです。コトルはコトル湾のもっとも陸側にしゅう曲した部分に位置する街の一つで、天然の要塞都市と云われ世界遺産に登録されています。ここでも幾つもの教会を巡って内部も見せてくれます。単一民族の日本からするとヨーロッパ各国のこの辺りの事情が理解しにくいところのようです。ヨーロッパの世界遺産の街は何処でも石造りで大きく荘重で、日本の木の文化と西洋の石の文化の違いを感じさせてくれます。モンテネグロはモンテネグロ人が43%、セルビア人が32%ボスニャク人が3%アルバニア人が5%等多民族国家ですが辛抱強く勇敢で団結力が強く独立を守ってきたと結んでいます。

8. 滝に映える (BD)

進藤信男 8分25秒

夏の箕面の滝の前で憩う人々を紹介して、その後夜の帳が下ります。ライトアップされた滝とシルエットで映る夕涼みの人達もいる

ようです。滝に通じる道を大勢の人達が向かいます。どうやら「音と光の映像ショー」がお目当てのようです。この頃は何処でも見かけるようになつたプロジェクションマッピングが始まります。滝をスクリーンに見立てて映像が投影されます。最初は暗い中の雷鳴から始まり段々と光線と色彩が強くなってきて盛り上ります。そして登り龍が登場してきます。撮影はホワイトバランス、絞りとも全てオート撮影だそうで非常に綺麗に撮られています。スピーカーからの音声を拾っているだけだと思いますが、迫力のあつる凄惨な音で盛り上ります。映像ショー撮影中はカメラの移動は無理なので、このような撮影の場合には小型デジカメをポケットに忍ばせておいて時々振り向いてプロジェクターの光束や観客の顔を押さえておけばさらに臨場感のある光のショー風景が撮影できると思います。

9. 雨の北野町(BD)

前田 茂夫 7分24秒

一昨年のあるクラブの撮影会での作品です。この日は雨が降って撮影には悩まされましたが、この日のカットだけでは足りずにまた別の雨の日に行つて来ました。雨の日の撮影は濡れるし不自由だしうっとおしい限りですが、それなりの風情があつて嫌いではありません。これまでも雨の日を狙つて撮りに行ったことは何度もあります。

10. 二月堂竹送り (BD)

高瀬辰雄 14分20秒

H24-2月に上映された「二月堂竹送り」の続編というべき作品です。前作では山城の里で切り出した竹材を二月堂へ向けて担ぎ出すシーンで終わりでした。その昔お水取

りの松明の軸には南山城地方から寄進されていたが、こうした風習も忘れ去られていったそうです。軸に使う真竹は昭和53年に蔓延した花枯病で近畿一円の真竹が殆ど枯れたそうです。その時に田辺町で枯れずに残っていた真竹を発見し二月堂に寄進したことから再び「竹送り」の風習が復活し今に続いています。竹林で真竹を掘り起こし長さを切りそろえて地元のお寺で奉納の儀式を済ませ大勢の地元住民に担がれて出発します。今回は二月まで送り届ける所まで克明に描いています。しかし担がれて田畑の側を歩くシーンのBGMが前作からの編集でカットしたためでしょうか、音とびがあります。BGMの修正をして欲しいと思います。竹が二月堂に到着した時のお迎えの情景は大変感動的です。お水取り行事の表面的な華やかさの影で多くの人達の努力があることを教えてくれるいい作品です。

11. 晩秋のモスクワ (BD)

山本正夢 8分30秒

昨年秋に行かれたシベリア鉄道の旅の終点だそうです。TOPシーンのモスクワの朝焼けは誠に詩的で美しい風景です。よく見るオモチャのお城のような塔に光が当たって輝く様はモスクワならではの風景です。初めから伴奏のないロシアの合唱曲が聞こえてきて途中から伴奏のある曲に変わって盛り上っていきます。今回の作品ではBGMの使い方が特に印象的で良かったと思います。晩秋の枯れ葉や落ち葉が季節感を盛り立てます。モスクワというと暗い陰鬱な情景を思い浮かべますが、正にその通りの風景が紹介されます。市内名所の見学などがありますが、革命記念日のパレード予行演習にも遭遇し軍事大国の一端を垣間見ました。

夜の繁華街や「すし」店の紹介もあつて日

本の食べ物がやはり人気があるのだなあと感じました。資本主義の国となったロシアですがイルミネーションの輝きからしても、まだまだ発展の余地が残されている国であるなあと思いました。

12. 一期一会のガスコーニュワイン (BD) 江藤洋司 14分29秒

北京オリンピックの時から南フランスの農家(シャトー)へ体験滞在をしているようで、普通の個人旅行と違って農家に滞在し、時には作業を手伝い得がたい経験を積み重ねているようです。庭の洋梨と木苺でケーキを作ったりしたり、昨年に宿泊をさせてもらったチーズ農家(フィリップさん)に今年も思いがけなくお世話になったりと、色々な出来事がテロップ付きで紹介されますが、理解することは困難でした。夕餉の席に作者が座っていますが、フランス語の会話によく溶け込めたものと感心します。撮影は三脚を使用し自分の姿も嵌め込まれているので貴重な体験旅行であることがよく判ります。コニャックとフォアグラの専門店に立ち寄ったり、ストーリーの流れがスムーズでないのとコメントが合っていないのが惜しまれます。しかし東洋の日本人を厚くもてなしてくれるフランス人家族とその関係を長く続けて来た作者の行動力には毎回感心します。これまでも農家滞在の記録作品は何本か見せてもらいましたが、今回の作品は今までの中で一番良かったと思います。

13. 流通革命 (BD)

野田邦雄 7分55秒

昭和36年にダブル8(フィルム)で撮った作品。昭和30年頃から鶏卵専門の小売店を開業されました。この映像は大阪市源が橋商店街玉子販売支店3号店とあります。

当時は卵はバラ売りで顧客に触らせて売ることはなかったそうですが、野田商店は店頭にうず高く積み上げた卵を顧客に自由に選ばせ販売する方式を取り大変好評だったようで繁盛している様が克明に写されています。卵1個が11円から15円の値札がついています。代金も百円札が多く千円札がちらほら散見されます。撮影もアップを多用され力強い表現がなされています。この作品の貴重な点は当時の卵の値段が良く判ることです。小売店の貴重な情景描写です。流通革命とは問屋を経由せずに直接農家から仕入れ安く販売する仕組みを編み出したからとのこと。しかし中内ダイエー店(昭和32年神戸で創業)が、目玉商品として鶏卵を1個1円で客寄せに使い出したことからこの商売に見切りを付け金属加工業へ転業し今の成功に繋がったそうです。大変貴重な記録映像ですからNHKが欲しがることと思います。

14. 彦根城 (DVD)

赤澤與三郎 3分28秒

滋賀県のご当地ソングの一つ琵琶湖周航の歌のメロディーに乗せて春の彦根城の風景が展開していきます。何度も耳にした曲とよく見慣れた風景とがよくマッチして叙情的な雰囲気になりました。作品の長さも一曲分で丁度良かったと思います。撮影もがちりとしてなされ落ちついています。ただ折角の綺麗な風景を見せるのに水平線が傾いていたカットが幾つかあったのが惜しまれます。水平線の傾きは編集で直しましょう。

「大阪光の饗宴ツアー」柴辻英一作品は時間切れで来月上映となりました。